

別紙 2

オウム真理教（教団）の活動状況

1 教団の概要

(1) 主流派及び上祐派について

教団は、麻原彰晃（以下「麻原」という。）に対する絶対的帰依を明示的に強調する主流派（「Aleph」、「山田らの集団」など）と、麻原に絶対的に帰依しながらも、外形上、麻原の影響力を払拭したかのように装い活動する上祐派（「ひかりの輪」）に分かれて活動している。

(2) 信徒数

教団は、国内に約1,650人の信徒を擁している。特に、主流派は、組織的な勧誘活動を積極的に展開することで、毎年100人程度に上る新規信徒を獲得している。

(3) 教団の資産

教団の資産（現金・預貯金・貸付金）については、令和元年10月末時点における総額が約12億9,000万円である。教団の資金源は、在家信徒を対象とした「集中セミナー」など、各種イベントの参加費や布施によるものである。

(4) 教団の施設

国内における教団の拠点施設については、15都道府県に主流派25施設、上祐派7施設の計32施設が存在している。

2 主流派の活動

主流派は、依然として、「集中セミナー」や麻原の誕生日を祝う「生誕祭」などの各種イベントを開催し、不眠不休で修行を行わせたり、麻原の偉大性を強調する説法を行うなどして、麻原に対する絶対的帰依を扶植する指導を継続している。

また、主流派は、新規信徒の獲得に向けた勧誘活動を組織の重要な取組と位置付け、教団名や宗教色を秘匿しながら、全国の施設を有する地域を中心に組織的な勧誘活動に取り組んでいる。

3 上祐派の活動

上祐派は、外形上、麻原の影響力を払拭したかのように装う“麻原隠し”の取組を推進してきたところ、施設内には、依然として麻原と関係のある仏画を掲示しているなど、今なお麻原の影響下にある実態が確認されている。

また、上祐派は、年3回の「集中セミナー」を開催したり、上祐史浩が聖地と定めた神社仏閣などを訪問する「聖地巡り」を繰り返し実施するなどして信徒教化を行っている。

以上